



第25回

「～みたいに」と伝えたい

～「そうみえる」をどう言うか～

学習のポイント

- likeを使って、こんなような物と言える
- like を使って、こんなふうにすると言える

英語監修・執筆 鳥飼慎一郎

■コミュニケーション

私たちは新しい物やこれまで見たこともない物を見たとき、「まるで～みたいだ」とよく表現します。初めて飛行機を見た人は「大きな鳥のようだ」と思ったことでしょうか。初めて日本のおせんべいを食べた外国の人は「クラッカーのようだ」と思うかもしれません。このように、人は今まで体験したことのない物に遭遇したときに、その物を既に知っている何か別の物に例えて表現します。また、あることをよりリアルに表現しようとして、「虎のようになど猛だ」「亀のようになどろい」などとも言います。これもある物を別の物に例えて、それがどのような物なのかを何とかうまく表現しようと努力している様子を示しています。

英語にもこのようにある物を別の物に例えて言うときによく使われる表現があります。それが like です。例えば、「飛行機は大きな鳥のようだ」と言うときは、

An airplane is like a big bird.

と表現します。これを、

An airplane is a big bird.

と言いますと、an airplane = a big bird という意味になり、あまりにも直接的な表現になります。「まるで～のようだ」と例えて言うときには、X is like Y. と表現します。

Okonomiyaki is like a pancake. (お好み焼きはパンケーキみたいです)

Naomi is like our mother. (直美さんは私たちのお母さんみたい)

Hina is like a pretty flower. (日梨はかわいい花のよう)

上記の例えでは、お好み焼きのふわとした食感がパンケーキと似ているので、まるでパンケーキのようだと言っています。次は、直美を母親のように頼りになると思っているため、直美は母親に例えています。最後は、日梨のかわいさをきれいな花に例えています。どれも最初の語と like の後に来る表現との間に何らかの共通点を見だして、最初の語を上手に説明しようとしている点は同じです。

この like は動きを表す語とともに使うとその動きがどのような物であるのかを効果的に表現できます。例えば、ゆっくりと走っている人を見て He is running slowly. と言ってもいいのですが、ゆっくり走っている様子を亀に例えて He is running like a turtle. と言うとその様子がよく表せるでしょう。また、素早く走っている人は、He is running fast. と言ってもいいのですが、He is running like a cheetah. とその速く走る様子をチータに例えることでより速そうに表現できます。

この like を使った表現には昔からよく使われる言い方があります。番組で出てきた sleep like

a log がその例です。英語では熟睡している様子を「丸太のように寝る」と言います。このほか、すやすや寝ている様子を **sleep like a baby** 「赤ん坊のように寝る」という例えもあります。

この like ~ という表現は、英語を外国語として勉強している私たちにとっては大変便利な表現です。例えば、折り紙の折り方を英語を使って教えてあげるとしましょう。「頂点を合わせて三角形を作ってください。次に、さらにその三角形を半分に折り……」などと複雑なことを英語で説明できなくても、「折る = fold」だけを知っていさえすれば、あとは実演をしながら **Fold like this.** を使って折り方を見せてゆけばいいのです。箸の持ち方を英語を使って教えてあげるのであれば、**Hold (your chopsticks) like this.** (箸を) こう持って **Use (your chopsticks) like this.** (箸を) こう使ってなどと hold や use を使いながら、自分が箸を使って見せれば十分に伝わります。ぜひ使ってみてください。

■単語や表現

shave

私たちは、shave と聞くと「ひげなどをそる」という意味をすぐに思い起こしますが、shave には「表面を薄く切り取る、はぎ取る、削る」という意味があります。かつお節を削るのも shave を使い、**shave dried bonito** と言います。cut はばっさり切ってしまうことですので、竹とんぼ用の竹を削ったり、かつお節を削るようなときには使えません。

番組では、shave という単語を知らない亮は、**cut the bamboo…little, little** と言って何とか相手に竹とんぼの作り方を伝えようとします。

私たちの英語は程度の差こそあれ、完璧ではありません。知っている単語や表現も少なく、文法の間違いもよくします。外国語として英語を習い、使っているのですからこれは当然と言えば当然であり、全く恥じることはありません。知っている英語を総動員して、何とかして言わんとしていることを相手に伝えようとするのが大切です。cut the bamboo…little, little の気概と工夫が英語でコミュニケーションをするうえで大事なのです。

■英語のきまり

What is it like? と What is it?

What is it? とは、「それは何ですか?」とその物ずばりを尋ねています。このように聞かれたときは、**It is a taketonbo.** のようにその物の名前を答えればいいのです。一方、**What is it like?** は、「それはどのような物ですか?」と相手にその物を別の物に例えてもらうときに使います。そう聞かれたら、ずばりその物の名前を言わずに、それを何か別の物に例えて答えます。

例えば、**It is like a helicopter.** (それはヘリコプターのような物です) のようにです。「どんな物」という日本語につられて、how を使って、ついつい **How is it like?** を聞きたくくなりますが、あくまでも物を別の物に例えてその物の名前を言ってほしいのですから、「物」について聞くときに使う what を使って、**What is it like?** と聞きます。

a piece of bamboo

「竹」のことは英語で、bamboo と言います。竹全体を1本、2本、と数えるときには、**one bamboo**、**two bamboos** と数えます。竹とんぼを作る素材として竹のある部分を使うようなときには **one bamboo** や **two bamboos** ではなく、**one piece of bamboo**、**two pieces of**

bamboo と数えます。英語では同じ物であっても、それ全体を1つと考えて数えるときにはその語の最後に2以上であることを表す **s** を付けて数えるのに、その部分を数えるときには別な語に **s** を付けて数える場合とがあり複雑です。

そのよい例が **cake** (ケーキ) です。例えば、ケーキ全体を数えるときには、**one cake**、**two cakes** と数えます。しかしケーキを切って分けるときの一かたまりは **one piece of cake**、**two pieces of cake** と数えます。



column

単語を発音してみよう ⑩

oil, mail, full, pool

これらの語のように、エルの発音が語の最後に来ると、舌を立てて上の歯ぐきに押し当てて発音します。ですので、**oil** はオイルではなく、オイウのように聞こえます。もしも最後のエルがルと聞こえるのであれば、舌を平たくして上の歯ぐきに軽く付けているか、付けた舌をとっさに離してしまっているかのどちらかでしょう。同じように、**mail** はメールではなくメイウ、**full** はフルではなくフウ、**pool** はプールではなくプーウと聞こえるはずですし、そう聞こえるように舌を立てて歯ぐきに押し当てて発音すべきです。

よく日本人は **r** と **l** がうまく聞き分けられない、うまく発音できないと言われます。どちらの音もルと聞こえるからでしょう。しかし発音の仕方をしっかりと意識すると意外と聞き分けやすいですし、発音するのもそれほど難しくはありません。**r** は舌を立ててその舌を口の奥に引っ込めるようにして発音します。大切なことは、そのときに絶対に舌先を口のどこにも付けないことです。舌が立っていますので、なんとなく口の中で音がこもって柔らかく響いているように聞こえます。その音が **r** の音です。一方、**l** の音は力強い音です。しっかりと舌を立てて舌先を上歯ぐきに押し当てて発音してみましょう。エルがエウのように聞こえるはずですし、それが **l** の音です。

